

令和3年11月18日  
(2021年)

保護者の皆様

吹田市立山田第一小学校  
校長 速水 素子

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和3年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

### 1 教科に関する調査の分析

#### (1)国語《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値とほぼ同じでした。「話すこと聞くこと」の正答率が全国より大きく上回る一方で、「言語文化に関する事項」については全国値を下回り課題が見られました。また、全国的には「読むこと」の領域が低い傾向にあり、本校も同様に目的に応じて必要な情報を見つけながら読むことに課題がみられました。

#### 《各領域における成果と課題》

##### 話すこと・聞くこと

- ・「目的に応じてスピーチの構成を考える」「スピーチの資料の目的を理解する」「目的や意図に応じて話す」ことは、全国値を上回っていました。

##### 書くこと

- ・「目的や意図に応じて理由を明確にしなが工夫して書く」ことは全国値とほぼ同じでした。
- ・「自分の主張が明確に伝わるよう文の構成や展開を考える」ことは、全国値を上回っていました。

##### 読むこと

- ・「目的を意識し、中心となる語や文をみつけて要約する」ことは全国値とほぼ同じでした。
- ・「文全体の構成を捉え、内容の中心を把握する」「目的に応じて文と図表を結び付け、必要な情報を読み取る」ことは、全国値をやや下回り課題がみられました。

##### 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・「漢字を文の中で正しく使う」ことは、全国値を下回っていました。
- ・「修飾語の使い方を理解する」ことは、全国値を下回り課題が見られました。

## 今後の国語の改善点について

- ・漢字の反復練習や、習った言葉を使った短い文章をつくる取り組みを継続的に進めます。
- ・その時学習している教材を学習するのではなく、教材を通して学んだことを意識させ、次の単元の学習で学んだことを応用していけるような学習や指導を目指します。
- ・読み取りの力については、6年間で系統立てて力をつけていく必要があり、学年ごとの読み取りに必要なスキルを意識して各学年で指導していきます。

## (2)算数《概要》

本校児童の平均正答率は全国平均値をやや上回る結果でした。「測定」の正答率が全国より大きく上回り、「数と計算」「変化と関係」については全国値をやや上回りました。「図形」「データの活用」では、全国値をやや下回り、課題が見られました。また、全国的に「思考・判断・表現」の観点の問題は正答率が低い傾向にありますが、本校も同様の傾向は見られたものの、全国値に比べると、やや上回る結果でした。

## 《各領域における成果と課題》

### 数と計算

- ・「道のりの差を求める」ことは全国値を上回っていました。また、「示された除法の結果を日常の生活場面に即して判断すること」「基準量を1とした時の比較量の値が小数になる理由を記述すること」は、全国値をやや上回っていました。
- ・「問題の場面から数量の関係を捉え、除法の式に表して計算すること」は、全国値をやや下回っており、課題が見られました。

### 図形

- ・「複数の図形の面積について比べる」こと、「複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを記述すること」については、全国値をやや上回る結果でした。
- ・「三角形の面積の求め方について理解している」ことは、全国値を下回る結果で課題が見られました。

### 測定

- ・「2つの道のりの差を求める方法を記述すること」「条件に合う時刻を求めること」については、全国値を上回っていました。また、「複数の図形の面積について比べる」ことについては、全国値とほぼ同じでした。

### 変化と関係

- ・「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察すること」「速さと道のりを基に、時間を求める式に表す」ことについては、全国値をやや上回っていました。
- ・「速さを求める除法の式と商の意味を理解している」ことについては、全国値を下回り、課題が見られました。

### データの活用

- ・「棒グラフから項目間の関係を読み取る」こと、「複数の棒グラフを比較し、示された特徴を持つ項目とその割合を記述すること」については、全国値をやや上回りました。
- ・「棒グラフから数量を読み取る」ことについては、正答率は高い傾向にありますが、全国値よりはやや下回りました。また、「データを二次元の表に分類整理すること」については、全国値を下回り、課題が見られました。

## 今後の算数の改善点について

- ・朝帯の時間等を有効活用し、継続的に計算練習や学習内容の復習をしていきます。
- ・全国値よりは高いものの全体として課題のあった思考力については、これまでのように問題解決学習を進めながら対話的な学びの中で伸ばしていきます。
- ・立式や計算ができて、その意味がわかっていない場合に正答率が低い傾向があるため、国語の課題と共通して、問題文の読み取る力を算数でもつけていきます。

## 2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### (1)学習環境・生活環境について

#### 生活について

- ・「毎朝同じ時間に起きる」「毎日同じ時間に寝る」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや高い傾向にありました。
- ・「毎日朝食を食べている」と肯定的に回答した児童は多いものの、数値的には全国値を下回っていました。
- ・1日当たりのゲームに使う時間について、平日4時間以上が全国値を上回り、3時間～4時間もやや上回る結果でした。多くの子どもたちが1日3時間以上ゲームに費やしていることがわかりました。
- ・1日あたりの学習時間については、「3時間以上」が全国値より上回る反面、「30分以下」も全国値を上回っており、している児童していない児童の差がある結果でした。
- ・地域の行事や地域での清掃活動等への参加については、全国値を下回っていました。

#### 携帯(スマートフォン)、ICT 機器について

- ・スマホやコンピュータなどのICT機器を学習のために平日に使っている時間は、「2時間」や「3時間以上」は全国値を上回っていました。また、「まったく使っていない」も全国値を上回っており、使う児童と使わない児童の差があることがわかりました。
- ・スマホやコンピュータなどのICT機器を持っている割合は全国値より上回っており、学習に使っている児童も全国値を上回っていました。
- ・家庭で決めたスマホやコンピュータなどのICT機器のルールを「きちんと守っている」と回答した児童は全国値よりやや上回りました。しかし、そもそも家庭でルールを決めていないと回答した児童も全国値をやや上回っていました。ここでもきちんと守っている児童と、そもそもルールを決めていない児童とで差がありました。

#### 学習について

- ・「国語の学習が好き」、「国語の内容がよくわかる」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや上回りました。
- ・「国語の授業では目的に応じて考えを話したり、必要に応じて質問したりしている」「国語の授業では目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり自分の考えを広げたりしている」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや上回りました。
- ・「算数の学習が好き」と肯定的に回答した児童は、全国値とほぼ同じでした。
- ・「算数の内容がよくわかる」と肯定的に回答した児童は、全国値よりも上回っていました。
- ・「算数の学習は将来役に立つ」「算数の学習を普段の生活で活用できないか考える」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや下回りました。
- ・「英語の学習が好き」と肯定的に回答した児童は、全国値よりやや上回りました。
- ・「英語で考えや気持ちを伝えあうことができた」と肯定的に回答した児童は、全国値より上回りました。

### **自分自身について**

- ・「自分には、よいところがある」と肯定的に回答した児童は、全国値より上回っていました。
- ・「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童は、全国値より上回っていました。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と、ほとんどの児童が肯定的に回答しました。
- ・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的に回答した児童は、全国値を上回っていました。
- ・「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的に回答した児童は、全国値を上回っていました。
- ・「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦する」と肯定的に回答した児童は、全国値を下回っていました。
- ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と肯定的に回答した児童は、全国値をやや下回っていました。

### **新型コロナウイルス関連について**

- ・「休校期間中、勉強に不安を感じた」と回答した児童も、「不安を感じなかった」と回答した児童も全国値より上回っており、感じ方に差のある結果であった。
- ・「休校期間中、計画的に学習ができた」と肯定的に回答した児童は全国値を下回っていました。

### **児童への生活・学習アンケートの結果について**

- ・生活については、規則正しい生活を送れているものの、家庭学習については差が見られたり、ゲームに多くの時間を費やしていたりする傾向があることがわかりました。今後も家庭と協力して、適正な時間の使い方について指導していきます。
- ・携帯(スマートフォン)、ICT機器については、家庭でも使用している児童は多く、きちんとルールを決めて守っている児童も多い反面、まったくルールもなく自由に使っている児童もいるという結果でした。家庭の協力や啓発活動を続けながら、学校では吹田市で進めているデジタルシチズンシップ教育を継続して行い、児童が自ら安全に安心してICT機器を使用できる力をつけていきます。
- ・学習については、国語・算数・英語ともに、概ね学習することは好きで、授業内容もわかっていると肯定的に捉えていることがわかりました。算数などで学習内容を生活に返すことを意識して指導していくこと、全ての教科で、引き続き児童にとってわかりやすい授業をめざすことに努めていきます。
- ・自分自身については、比較的自己肯定感が高い傾向でしたが、そうでない児童もいることを常に忘れず、児童を支援していきます。また、将来の夢や目標を持っている児童が多い反面、やり遂げることへの自信の無さや、失敗を恐れる気持ちを持つ児童が多い傾向がありました。学校は、様々なことを成功や失敗に関係なくチャレンジできる場所と捉え、各教科の多様な教育活動を通してチャレンジさせたいと考えます。また、自分に自信のある児童を育てるため、6年間を通して発達段階に応じた様々な経験を積むことを目指します。
- ・新型コロナウイルスの休校の影響については、感じ方に差が見られました。不安に感じている児童に寄り添い、丁寧に見取りや指導をしていきます。

### **3 おわりに**

今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、教職員一同、より質の高い教育活動を目指し、精進してまいります。また、ともに児童の教育に携わるパートナーとして、ご家庭と協力してまいりたいと思います。どうぞ、ご協力をよろしくお願いいたします。